

# 纏向遺跡第 162 次調査現地説明会資料

2009.3.22

桜井市教育委員会

## 1. はじめに

この度、桜井市教育委員会では桜井市大字辻 64-1 番地において纏向遺跡の範囲確認調査を実施しました。この調査は平成 17 年度から継続的に実施してきました纏向遺跡及び纏向古墳群の史跡指定を目指した範囲確認調査の一つであり、今年度で纏向古墳群の範囲確認調査の目途がついたことを受けて集落部分の調査に着手したものです。

今回の調査地は昭和 53 年度に県立橿原考古学研究所が発掘調査を実施し、一辺約5mの建物(SB-101)や柵列(SA-101)の一部が検出された纏向遺跡第 20 次調査地(辻 64-1 番地)と同一地点であり、今回は第 20 次調査で検出された遺構群の全体像を解明するために前回の調査トレンチをも含めて再度の調査を実施したものです。なお、調査期間は平成 21 年 2 月 3 日～平成 21 年 3 月 31 日を予定しており、調査面積は 384.5 m<sup>2</sup>となります。

## 2. 調査地の位置と環境

調査地は標高 75m前後の東側から派生する扇状地上の微高地にあたります(図1)。この微高地は太田北微高地と呼ばれるもので、微高地の南北には旧河道が流れていた事が判明しており東西に長く南北に存在する谷部分より約2m高い地形を形成しています。周辺は纏向遺跡内でも比較的古い段階(3世紀前半・庄内式期)の遺構が密集して分布する地域であり、先述した第 20 次調査においても庄内式期を中心とした多くの遺構が確認されています。

## 3. 検出された遺構

今回の調査では第 20 次調査の調査成果を受けて上層では3世紀後半の遺構面となる包含層Ⅲ上面と包含層Ⅲの下部において検出された3世紀前半の遺構面となる地山及び整地層上面の2面において調査を行っていますが、ここでは多くの柱列や建物群が確認された下層検出の遺構群について見ていくこととします(図2)。

**遺構面の状況** 3世紀前半段階の遺構が存在する下層の遺構面は大きく分けて黄褐色粘質土(地山)・灰褐色砂礫(縄文時代後・晩期に形成されたとみられる堆積層)・黄褐色粘質土ブロックを多く含んだ灰褐色土(整地土)の3つの土壌から構成されています。調査区の中央部、柱列Gの南端に位置する柱穴より南にかけては調査区内では微高地内でも最も高い地点に位置するものとみられ遺構面には黄褐色粘質土の地山が一部露呈しています。調査区の南半は南側に位置する谷部へと地山が徐々に落ち込んでいますが、この上には灰褐色砂礫層が被っており、下層遺構はこの灰褐色砂礫層上面において検出されています。また、調査区の北半ではやはり

北側の谷部へと地山が徐々に落ち込んでいますが、この上には整地土が厚く盛られており、下層遺構はこの上面において検出されています。

**柱列A** 調査区南半部において検出された東西方向に並ぶ3基の柱穴で構成される長さ3m以上の柱列です。柱列の延長線上の西側からは柱穴が検出されていないことから西端は確認されていますが東側は更に調査区外へと延びる可能性が高いと考えています。なお、最も西側に位置する柱穴は柱列Bの延長上に位置するもので柱列Bと接続する可能性が考えられます。

**柱列B** 昭和53年の調査時点で確認されている3基の柱穴で構成されたSA-101とされた柱列がこれに相当します。先述したSB-101の南面柱列との間隔は約140cmでSB-101と同時期に築かれたものと考えられているほか、最も北側に位置する柱穴は柱列Cの延長上に位置するもので、柱列Cに接続する可能性が考えられます。なお、今回の調査では柱列Bの延長上、柱列A西端柱穴北側において柱穴を1基検出しており、一連のものと考えると9.2mの長さがあります。

**柱列C** 昭和53年の調査時点で確認されている東西柱列で柱列Bの北端の柱穴から西へ7基の柱穴で構成されています。SB-101の南面柱列との間隔は約140cmで今回の調査では西端から2基の柱穴が新たに確認され、東西6mの長さのものであることが判明しているほか、最も西側に位置する柱穴は柱列Dの延長上に位置し、柱列Dに接続する可能性が考えられます。

**柱列D** SB-101の西面柱列の約1.8m西側で検出された柱列で、昭和53年の調査地内に存在する柱穴3基を含んで8基の柱穴で構成されています。柱列の長さは8.2mあることが判明しています。なお、最も北側に位置する柱穴は柱列Eの延長上に位置するもので、柱列Eに接続する可能性が考えられます。

**柱列E** SB-101の北面柱列との間隔約140cmのところ検出された延長距離4.6m以上にのぼる5基の柱穴からなる柱列です。この柱列は東に向うに従ってやや南方向に振れる傾向が認められますが、これは柱列を構築する際にやや南へと振れを持つSB-101の北面柱列に沿わせて柱列Eを構築したためだと考えられます。本来は東側に更に1基の柱穴が存在した可能性が考えられますが、柱列Eの延長上には後の遺構である庄内3式期の溝SD-2001があり、これによって削平を受けてしまったものと考えています。

**柱列F** 調査区の北部において検出した南北柱列で、3基の柱穴から構成されています。柱列Fは南北方向に3.2m分検出されており、本来は更に長く続くものと思われるが、北側は調査区外へと延びており、本来の長さは不明です。また、柱列の南側は南端で検出された柱穴は先述したSD-2001によって大きく削平を受けていましたが、本来はさらに南側に存在したと考えられる柱列E東端の柱穴と接続するものと考えられます。なお、この柱列はSB-101の南側で検出されている柱列Bの延長線上に位置するもので、建物(SB-101)などの他の遺構とともに計画的に構築された可能性が高いと考えられます。

**柱列G** 調査区中央東側で検出された柱列で南北方向に3基が確認されています。先に見てきた柱列とは異なり、やや大きめの柱穴の中に柱の痕跡を残すもので、SB-101の東側に展開する建物跡になる可能性が高いと考えています。SB-101とは方位を揃えて構築されたもので、SB-101との距離は約5.2m、南北に6m以上の規模を持つものであることが判明しておりSB-101

よりも大きな建物になる可能性があると考えていますが、遺構の大半は東側の調査区外へと展開しており詳細な規模や構造は不明と言わざるを得ません。

#### 4. 遺構の時期

各遺構の所属時期については遺構出土の遺物の分析や土層の層位的検討を行い慎重に吟味して決定しなければなりません。今回の調査にかかる出土土器は多量であり、調査途中の現時点ではすべての土器資料の整理が終了していないため厳密な時期を導き出すのは困難な状況にあります。しかしながら、これまでに得られた知見では整地土及び柱列の構築時期は3世紀前半の庄内式期古相段階、そしてその廃絶は3世紀中頃(庄内3式期)と考えています。

#### 5. まとめ

今回の調査では第20次調査で確認されていた建物(SB-101)とその周辺に展開する遺構の状況について様々な新しい知見を得ることができました。これらの知見を順に挙げてみると、

1. 第20次調査ではSB-101の周囲には柵列の存在が想定されていましたがその具体的な様相はよく解っていませんでした。今回の調査では柱列B-Fを結ぶ南北ラインよりもSB-101及び柱列C~Eが西へと張り出し、SB-101の周囲を取り巻く状況が確認されるとともに柱列Aの存在により、更に東側へと柱列が伸びていくという複雑な構造が確認されました。SB-101が南北軸の中心に位置すると仮定して柱列の展開を想定すると柱列で囲まれる範囲の南北長は約26mとなります。
2. SB-101の東側で検出された柱列Gの存在から柱列で囲まれた内部に建物の存在が想定されるようになりました。また、柱列Gは柱列A~F・SB-101などと軸線を揃えて構築されていることから一連の遺構は強い規格性を持って構築されたと考えられます。
3. 第162次調査と第20次調査の遺構平面図を合成して検討を行った結果(図3)、第20次調査Wトレンチ部分において柱列Eや柱列Gの北端柱穴と東西方向に軸線を揃えた柱列が確認され、SB-101の西側にも建物が存在する可能性が考えられることとなりました。この柱列は東西3間(約5m)×南北1間分以上が確認できるもので、SB-101からは約10.5m、柱列Dからは約9m西に位置するものです。

以上、これらの事柄を総合すると今回新たに検出、或いは確認された柱列の存在からは軸線を揃えた建物が東西に3棟連続して構築されている可能性が高いと考えています。

また、SB-101の周囲を取り巻く柱列A~Fの存在は恐らく柵列になるものと考えていますが、これは柵列の内外を区画するためものと判断され、今回調査の対象となった微高地上が区画を分けながら計画的に利用されていた様子が窺えるものです。

古墳時代前期初頭においてはこのように複雑かつ整然とした規格に基づいて構築された建物群の存在は全国的にも珍しいもので、これらの遺構群が纏向遺跡の中でも何らかの特別な施設の一部となる可能性がでてきたことは特筆すべきことと言えるでしょう。今後は更に周辺地区の調査を推進し、その構造や性格を明らかにしていきたいと考えています。

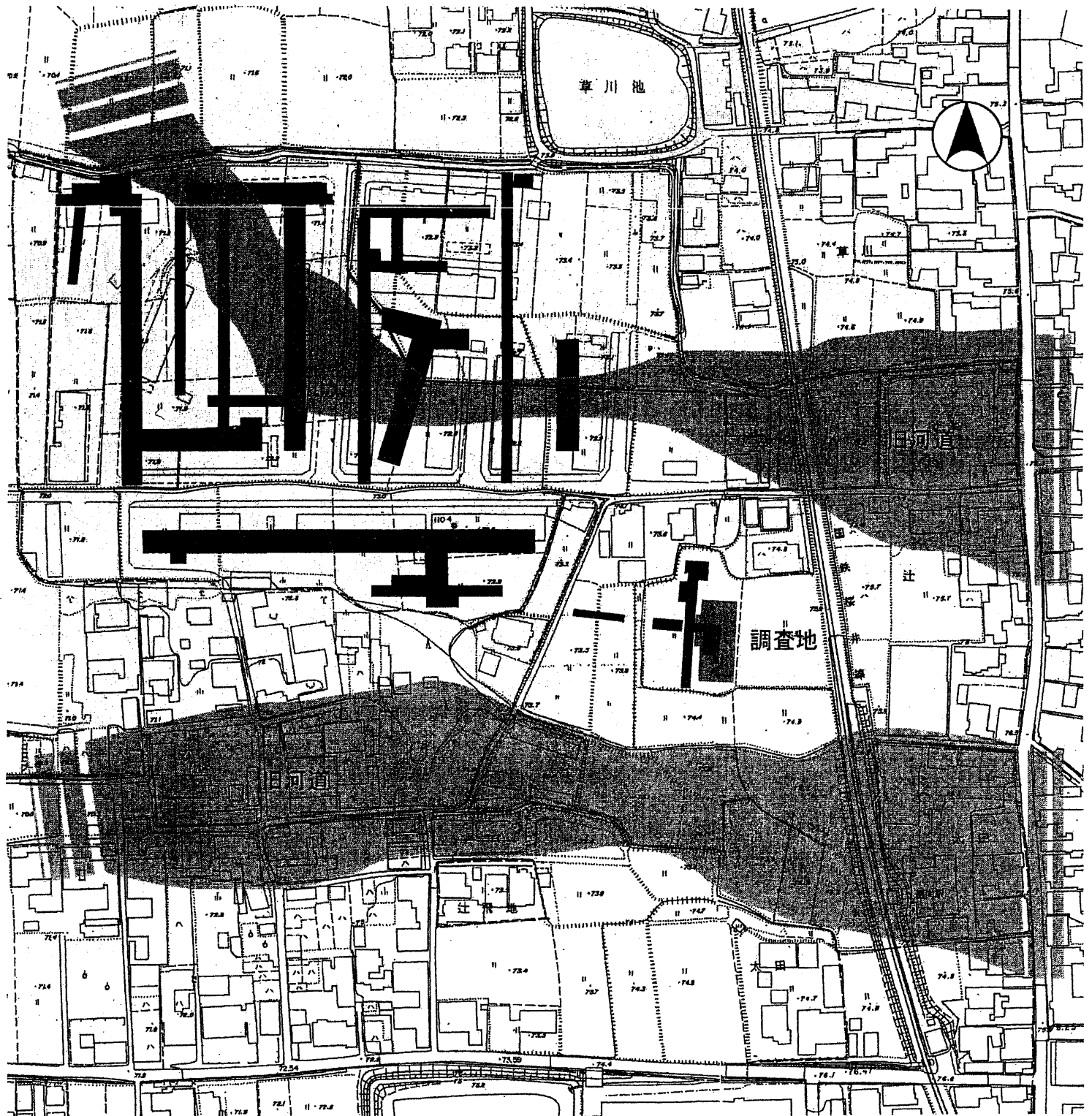


図1 調査地位置図 (1/2000)

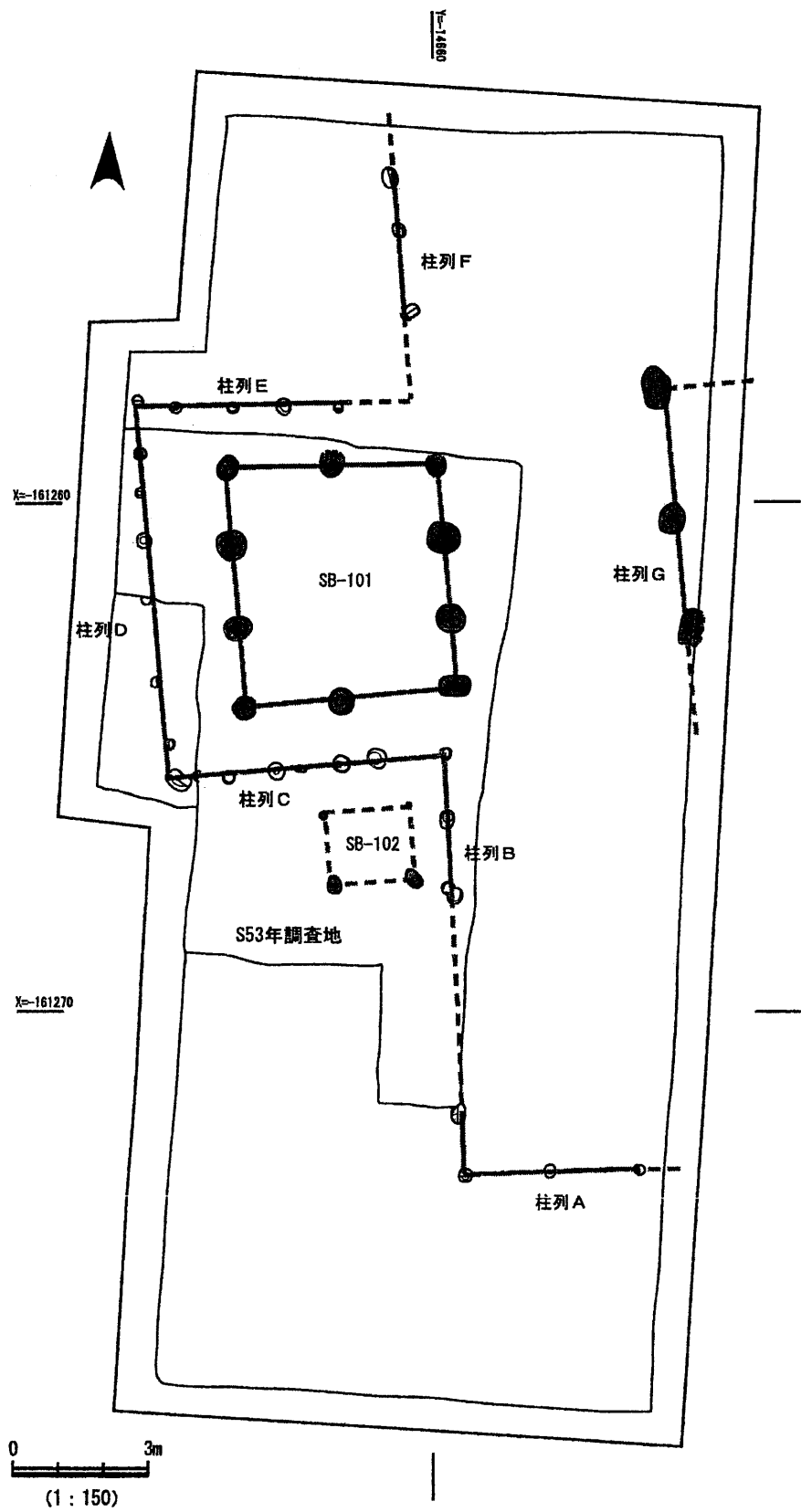


図2 調査区内遺構配置図

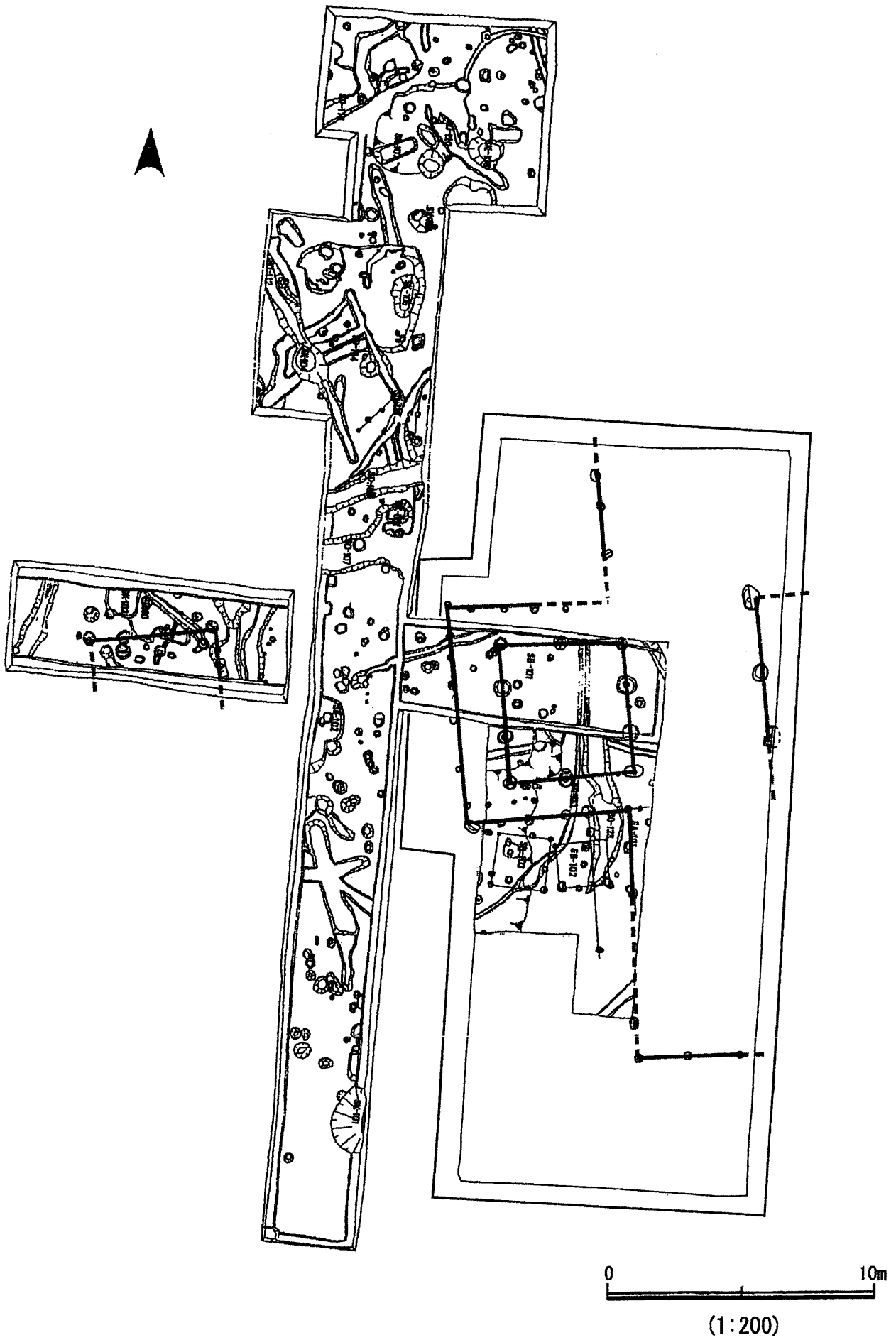


図3 辻64-1番地内の遺構配置図